

# 私たちの国土 2

---

## 4 国土の気候の特色

教科書 P 44 ~ 45





今日は夏と冬の降水量の多い地域について考えていくよ。



降水量って、雨がどれくらい降るかってことだっけ？



降水量は、雨だけでなく雪や霜なども水として計算します。そしてその量をmmで示しているよ。



では夏と冬の降水量を調べよう。  
7月と1月の降水量の図を比べてみよう



この資料を見て気づくことはありますか。



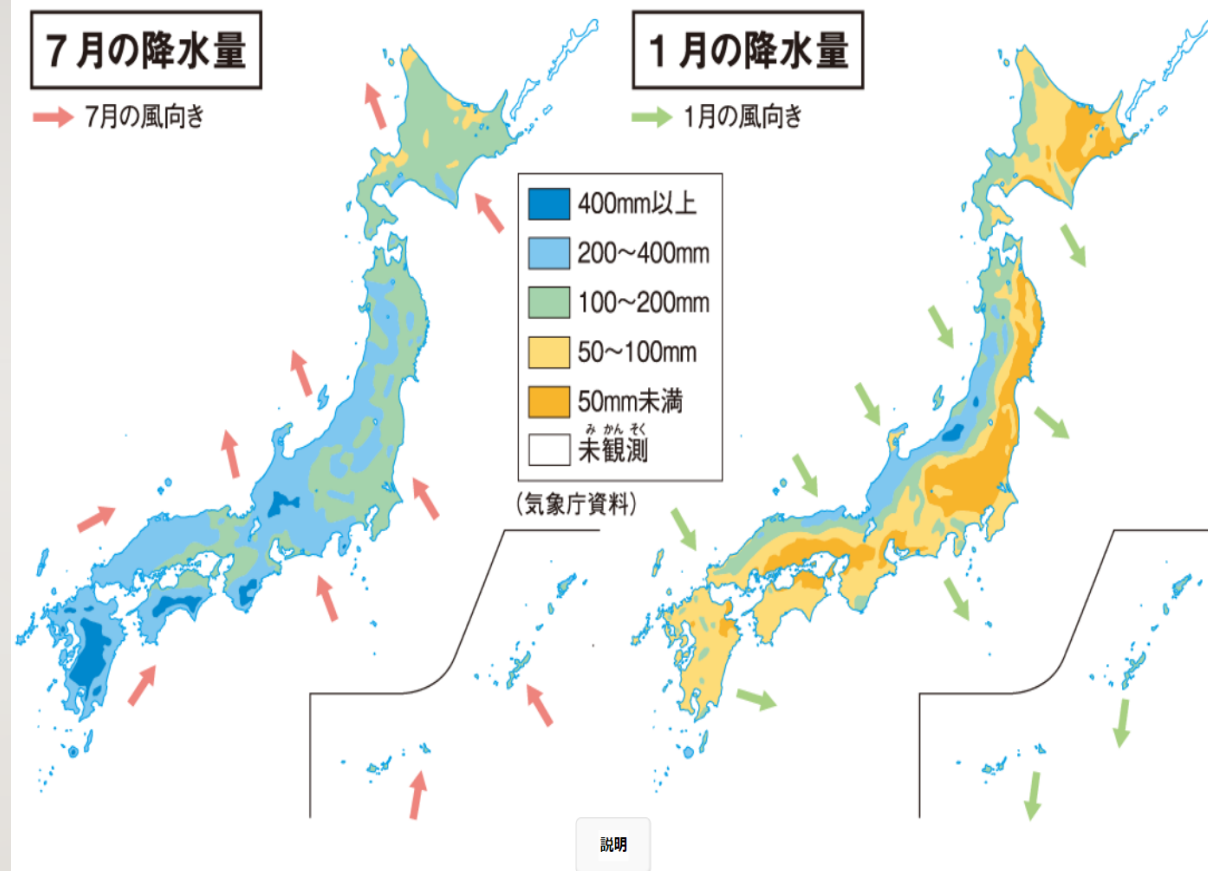
7月は降水量が多い地域が多いね  
でも1月は日本海側と太平洋側で  
降水量が違うね。



なぜ7月と1月で降水量が違うんだろう。



7月はつゆ（梅雨）や台風の影響がある  
んじゃないかな。







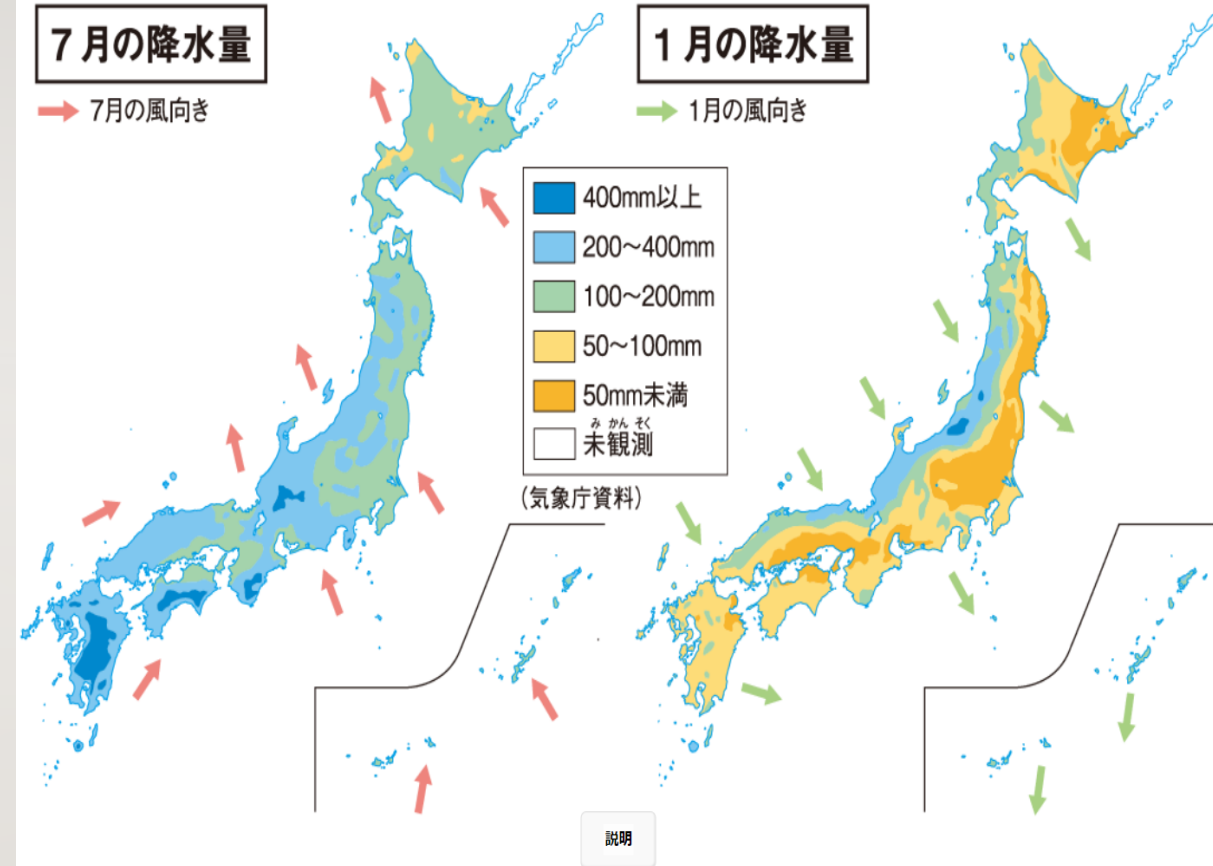
つゆ（梅雨）ってなんだっけ？

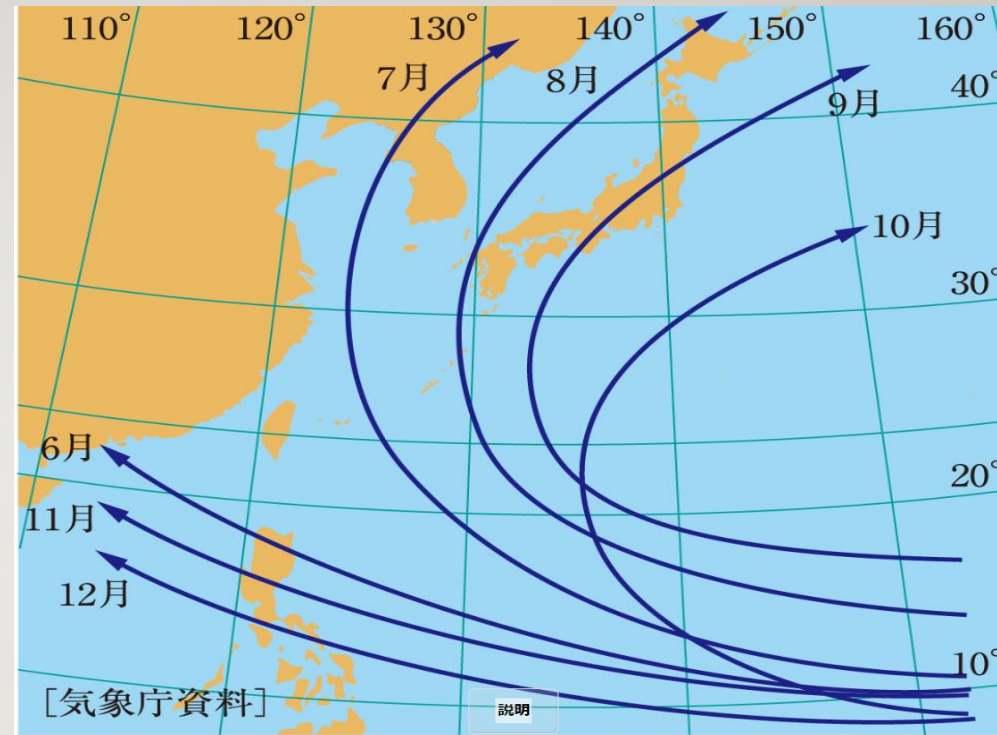


つゆ（梅雨）とは6月中旬ごろから7月にかけて雨が多く降る時期のことだよ。



場所によって短時間で多くの雨が降ることもあるけど、農業にとってはめぐみの雨になる大切な時期だよ。





台風は沖縄や九州、四国に大きな被害を出すんだね。



年間平均で25件発生し、  
11件が接近し、  
2.7件が上陸するよ。





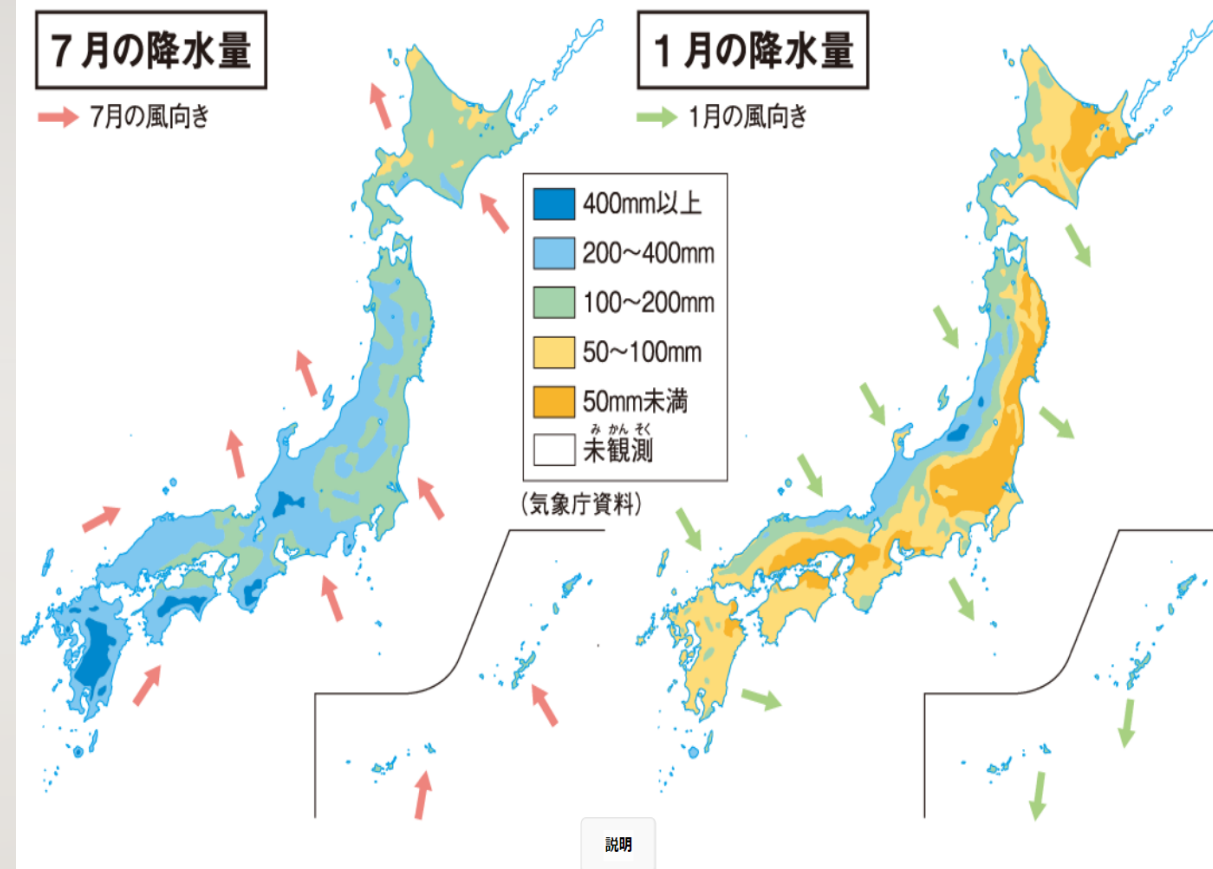
7月と1月は風向きも違うね。



夏と冬に季節風（きせつふう）がふくよ。



夏には南東（太平洋）から  
冬には北西（ユーラシア大陸）からふくんだね。  
夏には太平洋側に多くの雨をふらせ、  
冬には日本海側に雨や雪をもたらすんだ。





今日の学習をまとめよう。



夏はつゆや台風のえいきょうで日本全体で雨が多いです。特に太平洋側で多くの雨がふります。台風によって大きな被害が出ることもあります。



冬の日本海側では雪がふる日が多く、太平洋側では晴れる日が多いね。  
つゆや台風、季節風によって雨や雪の量が地域や季節ごとにことなります。



次回はグラフを読み取っていくよ。